

この歳で囲碁部 34 名の先生になりました！

盛岡市 古澤元雄

はじめに

中学校囲碁部に教えることになってから数年になります。孫が通っている中学校に囲碁部があることを知ったのは、学校公開などで何回か中学校に足を運んだ時だったと思います。孫に聞いてみたら、すでにコーチが来ているとのことでした。その後偶然にもその方が、日本棋院岩手県支部の「光スクール」(初心者教室)の指導者もしていることを知り、早速支部役員をしている知人に話を紹介してもらい、いろいろ話をしたところ「実は仕事の都合でそろそろいけなくなるかもしれないから、ぜひ来てください。当分は二人でやりましょう。」ということになり、押しかけ指導者となったのでした。

河南中学校は生徒数 400 人余です。盛岡市の中学校としては、生徒数も多い方で、体育系の部活動は盛んですが、文科系は美術部と吹奏楽部ぐらいしかありません。ところが、なんと囲碁部があるのです。

囲碁部の活動実績と私の役目

今年の春の新生 12 名を入れて、部員は現在 34 名もいます。13 路盤が足りなくなり困っていたところ、日本棋院岩手県支部から 6 面(表は 19 路盤)も寄付していただきました。

部活動の実績ですが、昨年までは県内に囲碁部のあるのは本校だけで、あとは部外者の中学生が集まって大会に出てくる中学校が数校あるだけです。そんなわけで、県内予選では優勝か準優勝の成績で、文部科学大臣杯全国大会に毎年出場しています。全国大会では、予選リーグでの 1 勝が精一杯で全国レベルの高さを思い知らされています。それでも今年は、1 年生に五段君が入ってきたので、二段君の 2 年生と合わせればいっぴしの実力校です。

今年の新生は全員が素人で、普通なら教えるのに途方に暮れるところですが、13 名もいる 2 年生(うち 4 名は女子)が 1 対 1 で教えてくれるので助かっています。私の役目は、一つは昇格テストの審査員です。詰碁・手筋・棋譜ならべ、それに対局数等にそれぞれ点数をつけ、その合計が一定の点数を得たものが、私に対局



写真 1 第 16 回(2019)全国大会の 3 名
右から、五段、二段、4 級



写真 2 私との昇格試験



写真3 放課後の部活動

(立って3面打ちをしているのが先輩の指導者、座っているのが昇格試験中の私)

します。さらに私に質問してきたものにも点数を与えます。難しい局面をもってきて「ここはどうしてこうなったのか」あるいは「どう打つのが最善か」などの質問には、高い点数を与えます。もちろん解説付きです。

級付けは、30級から始まります。私とのテスト対局に勝てば昇級しますが、クラスが上になると2回か3回勝たないと昇級できない仕組みです。また、部内大会での成績での昇級もあります。こうして今年の1年生の最速昇級者は、先日の県民共済の大会で、Aクラスで優勝した13級が、対局中に11級になり、優勝したので9級に昇級しました。今頃は8級か7級になっているかもしれません。

女子生徒は一寸覚えが悪く19級が最高でしたが、先日の県民共催の大会（置き碁と逆こみハンディ戦）で準優勝し、17級になりました。「コーチ！私は高校に入ったら絶対囲碁部に入ります！」と云ってきました。これは見込みがあります。もう16級になっているかも？ 2年生は、前述の二段の他に2級～10級ぐらいがゴロゴロしています。何とかして彼らを初段にするのが夢です。

私の教えのもう一つの役目は、碁野紙に採譜しながらの対局です。後日それをもとに棋譜を作成し、全着手についての解説文を作り、対局者の学年全員を集めてコピーを渡したうえで、解説会を行います。もちろん個別に対局して悪い手を指導することは常時やっています。残念なのは、部活動は殆ど毎日やっているのですが、私自身いろいろと付き合いがあって毎日行けないことと、活動時間が4時から5時までの1時間では物足りないことです。部員が34人もいると、個人レッスンがなかなかやれないことです。

指導の合間の会話で、「碁は面白いか？」と訊くと「面白い」「トランプやオセロなどの比ではない」との答えが返ってきます。それで、雨の日も風の日も都合がつけば、家内に「今日は休んだら」と言われながら、教えることを楽しみに勇んで出かける84歳の私です。

(原稿受付 2019.12.5)